

なぜ逝ってしまったのか森君！

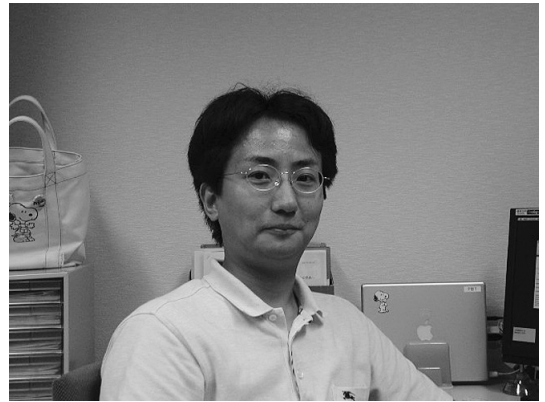
黒田武彦 (兵庫県立西はりま天文台公園)
e-mail: kuroda@nhao.go.jp

青天の霹靂とはこのことを言うのだろうか。5月22日未明、兵庫県立西はりま天文台公園特別研究員の森 淳君は、何の前触れもなく、36歳の若さで逝ってしまった。

午前0時34分だった。携帯の着信音が鳴ったが、風呂に入っていて取ることができなかった。着信履歴を見ると森君の携帯からだった。すぐさま電話をするがなかなか出ない。やっと通じて出られたのは奥様だった。「少し風邪気味で熱が高かったが、顔色が突然土色のようになり、眼が充血して意識を失ってしまった。救急車を呼んでいるが、今は意識が戻っている」との話に驚いた。搬送先が決まれば連絡してもらおうことにして電話を切った。約1時間後に連絡があり、病院に急行した。点滴と酸素吸入、心電図測定の中中だったが、意外に元気そうなので安心した。医師は大したことはない、夜が明けてから大きな病院で診てもらってくれと言うし、森君も大丈夫だと言うので私の車で自宅まで送った。3時頃だった。

兵庫県立大学で宇宙科学の講義を受け持っているが、西はりま天文台の若い研究員にも参加してもらおうと本年度からオムニバス方式を採用した。森君にやらないかと尋ねると二つ返事でOKをしてくれた。22日は一時限で森君が講義を担当することになっていたが、私が代わった。3時に別れた後、この調子なら講義をやれたね、と奥様に話したという。

3時半頃、床に就こうとして再び気分が悪くなり、また救急車を呼ぶことになったらしい。そして急変、救急車の中で息絶えてしまったそうである。私がそれを知ったのは講義の最中に鳴った電話だった。学生も森君の講義を先週1回だけだが経験している。とても楽しくわかりやすい講義で好評だった。森君の死を告げたとき、250人を超える学生が一斉に驚きと悲しみの声をあげた。心



からの声だった。

警察の監察医の所見によると、心筋梗塞であったとのこと。あんなに元気だったのに何たることか。

「2mなゆた望遠鏡」を活かした「彗星スペクトルセンター」を立ち上げ、京都産業大の河北さんたちと研究を開始したばかりだった。このセンターの宣伝と彗星のおもしろさを伝えるべく、私の知人の要請に応じて昨年1月には、千里アーカイブステーションのDVDもできあがった(「彗星は生命のゆりかご?『なゆた』で探れ! 宇宙と生命の謎」)。5年という任期付採用の最終年にあたっていたが、森君の研究は軌道に乗り、成果に向かって順調に進んでいた。

研究の傍ら、教育・普及にかける情熱も大きく、日本天文学会天文教育委員、日本公開天文台協会事務局長としても大活躍の最中だった。

最愛の奥様と5カ月のお子様を残して逝ってしまった森君、ゆっくりと休めないのは仕方がない。願わくばどんな形でもいいから、時々出てきてほしいと願っている。本音で語り合える森君がいなくなって、今は寂しさと悔しさにいっぱいである。